

2. 留学生相談部門

留学生相談部門の活動対象は、1) 一橋大学に在籍する留学生、2) 留学生の支援や交流を希望する日本人学生、3) 留学を希望する日本人学生、及び4) 留学生の問題を解決するために連携する教職員や地域社会の人々である。2004年度の留学生相談部門の業務は、留学生相談部門教員(横田雅弘)と留学生センター兼務で各研究科に所属する留学生専門教育教官(商学研究科:太田浩、経済学研究科:井村倫子、法学研究科:中本進一、社会学研究科:河野理恵)が担当した。

留学生相談部門が提供する教育サービスは、1) 学生の相談に応じ、問題解決を図る「相談活動」と、2) 学生の適応上の問題を未然に防いだり、異なる文化への認識を高めていく「予防・開発的活動」の二つに分けられる。相談活動の中心は、アドバイジングとカウンセリングであり、治療的な面接から情報提供まで幅広い活動が含まれる。予防・開発的活動には、a) オリエンテーション・プログラムやガイドブックの出版、各種チューター制度の運営など留学生の異文化不適応を予防する活動、b) 見学旅行、授業など、留学生の日本社会・文化あるいは大学制度への理解を促す活動、c) コミュニティによる生活支援を促進する活動、d) 学生国際交流誌『Bridges』の編集、e) 日本人学生のための留学フェアの開催や海外留学ならびに留学生理解に関する授業、f) 教職員に留学生の現状を伝え、大学の受け入れシステムを改善する活動などがある。

1. 相談活動

1) 相談室の時期、時間及び担当者

夏学期に対応した開室日は3月24日～7月31日であり、冬学期に対応した開室日は9月28日～2月22日であった。これらの期間の月曜日～金曜日の午前10時～午後1時、午後2時～午後5時に留学生相談室を開室した。なお、長期休暇中は相談室を閉室したが、相談担当者の研究室で相談を受け付けた。表1は相談室担当者の一覧である。

表1 相談室担当者の一覧

曜日	10時～13時、14時～17時
月	横田雅弘
火	太田浩
水	井村倫子
木	河野理恵
金	中本進一

2) 来談状況の分類

① 相談領域

表2は2004年度の来談状況の分類である。一年間で延べ1,408件(昨年度1,063件)の相談を受け付け、延べ1,504名(昨年度1,219名)の来談者があった。昨年度よりもかなり

2. 留学生相談部門

増加している。来談者数が相談件数よりも多いのは、複数で来室したものを1件とカウントしているためであるが、特に留学生と日本人学生が2人で来室するチューター・オリエンテーションを1件とカウントしたために、その分が件数との差の大半となっている。

今年度相談件数が一番多かった領域は、「チューター」（148件、10.5%）である。これは、留学生と日本人学生によるチューター申込みの登録である。5番目に多い「チューター・オリエンテーション」（87件、6.2%）を含めて、チューター制度に関するものが全体の16.7%となっている。これは厳密には相談とは言えないが、予防的・開発的な施策の一環として、また日本人学生の教育的な面ももつ活動である。チューター・オリエンテーションとは、チューター制度の有効性を高め、日本人学生と留学生のトラブルを防止するために行っているものであり、チューター候補者と留学生の両者を相談室に呼んで、『日本人学生の海外留学と外国人留学生との交流のための海外留学・留学生交流ハンドブック』をテキストとし、チュートリアルの内容の確認、チュートリアル実施にあたっての注意事項、問題が起きた場合の対処などについて指導している。2004年度このガイドブックの改訂を行い、特にチューター制度に関して現状に則した掲載がされるようになった。なお、留学生センターの日本語研修留学生につくチューターについては、日本語指導に関する事項を含む特別のオリエンテーションを夏学期8名、冬学期3名に1時間程度実施した。

なお、2003年度に実施した留学生アンケートのチューター制度に関する分析に加え、担当の河野講師がインタビュー調査を実施し、一橋大学留学生センター教育研究シリーズ⑥『一橋大学チューター制度の調査報告（1999年～2003年の実態調査）』河野理恵、2005.3として報告書を発行した。

チューターの次に多かったのは「住居」（129件、9.2%）に関する相談である。小平国際学生宿舎に関する質問も多く、またいろいろと問題も発生し、そのためにフロアリーダーや宿舎チューターからの相談が増加したために相談件数が昨年度（74件）に比べて増えている。

経済に関する相談は次のように下位分類されているが、昨年度に比べて全体に増加している。「経済」（30件、昨年度11件）の問題を抱えて来室した者の数は、絶対数はそれほど多いわけではないが増加しており、深刻な事例が少なくない。「減免」（125件、昨年度97件）は申請のためのサインを求めて来た者がほとんどである。「奨学金」（31件）と推薦書（34件）は分けられているが、推薦書の多くは奨学金申請のためのものである。アルバイトに関するものでは、「アルバイト」（13件）の相談と資格外活動許可申請のための「副申書」（70件）が含まれる。以上、経済に関係する来談件数を合計すると、303件（21.5%）となり、昨年度の204件を大きく上回る。なお、「住居」（129件）と分類されている内容にも、経済的な理由で訪れた者が含まれる。経済に関する相談は、相談内容については生活設計の建て直し、アルバイトや奨学金紹介などになるが、解決は難しいものが多い。心理的に追いつめられていることが多いので、話を聞いていくことでそれでも何とかやっつけようという気持ちをもってもらうことが大切である。話の内容には、どうして私は減免や奨学金がもら

えないのかという制度や審査に対する不満が多くの場合にあり、まずはそれを聞いていくことになるが、なかなか難しいカウンセリングである。中には、もともと入学時から、しっかりとした資金計画がなかったのではないかと思われる事例もある。入学願書の中に学費と生活費等の計画を記入する欄を追加する措置が 2004 年度入試から採用されたが、この数字からみると直接的な効果があったとは言えない。

学内の国際交流・異文化交流誌である『ブリッジス (Bridges)』の編集会議や指示に関して来談した件数 (48 件、昨年度 25 件) は、2003 年度から発行が年 1 回になったためにそれ以前に比べて減少してはいるが、2004 年度の号はページ数も増して立派な雑誌になったため、昨年度より増加している。これも相談というような内容ではないが、原稿を書く留学生が多く、日本語で文章を書いたりインタビューしたりする勉強の一部になっている。

健康の問題には、身体的な問題 (10 件、昨年度 7 件) と心理的な問題 (37 件、昨年度 19 件) がある。心理的な問題については、相談室ではなく、研究室で相談を受けたケースが実際にはここに挙げられたもの以外にもある。研究室相談についてもきちんと統計をとるように心がけたが、まだ徹底されていないところがある。心理的な問題については、他の項目と比べると複数回来談するケースが多い。

昨年度に比べて大きく増加している項目に、教育 (内容) すなわち授業等の内容に関するものがある。昨年度は 30 件であったが、今年度は 79 件 (5.6%) であった。「留学生理解と国際教育交流」の授業が浸透して日本人学生からの質問なども多くなったためではないかと思われる。日本人学生からの留学相談 (65 件、昨年度 35 件) もこれに関連していると思われるが、同様に増加している。

「行事申込」 (22 件) とは、毎年 5~6 回開催している通常 20 名での日本探訪旅行の補欠者の申込みや、オリエンテーションに來られなかった学生 (無断での欠席は辞退とみなしている) の個別オリエンテーションなどである。「地域」 (24 件) とは、地域ボランティアの市民の方からの相談や打ち合わせが含まれる。学生からのホストファミリーに関する質問や紹介もここに入る。

また、最近の傾向としてメールによる相談や問い合わせも増加している。よって、相談室担当者は、担当曜日以外でも多くの相談に対応しているといえる。

2. 留学生相談部門

表2 2004年度の月別来談者状況（件数）

順位		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)	構成比 (%)
1	チューター	28	32	14	7	0	1	40	13	2	9	2	2	150	10.65
2	その他	12	3	13	13	9	1	24	16	24	16	9	8	148	10.51
3	住居	15	5	7	6	6	1	18	18	21	21	6	5	129	9.16
4	減免	56	0	0	0	0	8	61	0	0	0	0	0	125	8.88
5	チューターオリ	19	18	15	2	0	1	12	11	5	4	0	0	87	6.18
6	進路	6	6	19	11	1	3	18	3	3	5	5	0	80	5.7
7	教育	13	4	7	5	1	0	3	11	5	23	7	0	79	5.6
8	会議	6	9	14	2	0	0	2	9	12	17	5	2	78	5.54
9	副申書	15	5	2	8	4	2	11	5	11	4	2	1	70	4.97
10	留学相談	4	5	7	23	0	0	6	11	7	2	0	0	65	4.62
11	ブリッジス	0	2	0	2	5	1	4	3	5	22	4	0	48	3.41
12	履修	22	1	2	2	0	0	15	1	0	2	1	0	46	3.27
13	健康（心理）	6	7	3	1	0	1	2	2	1	4	4	6	37	2.63
14	推薦書	12	3	2	0	0	0	2	3	7	3	1	1	34	2.41
15	在留資格	4	7	6	2	1	0	1	3	4	5	0	1	34	2.41
16	奨学金	10	2	7	4	0	0	2	2	2	1	0	1	31	2.2
17	経済	9	6	3	4	0	0	2	0	1	0	1	4	30	2.13
18	生活	8	0	4	2	0	2	4	3	2	0	0	1	26	1.85
19	地域	3	4	5	0	0	4	0	2	4	1	1	0	24	1.7
20	行事申込	0	0	0	11	0	0	0	0	0	5	6	0	22	1.56
21	言語	0	1	1	4	0	1	1	4	0	6	0	0	18	1.28
22	アルバイト	4	0	3	1	0	0	1	2	0	1	0	1	13	0.92
23	オリエンテーション	5	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	2	13	0.92
24	健康（身体）	3	1	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0	10	0.71
25	就職	2	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	0	7	0.5
26	人間関係	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0.28
	合計	235	91	125	103	27	26	192	112	114	147	53	33	1408	99.99

② 来談者の内訳（表3）

全来談者のうち、留学生は 876 人（60%）、日本人学生は 349 人（23.2%）、教員は 39 人（2.6%）、職員は 80 人（5.3%）、学外者（学生を除く）は 160 人（10.6%）であった。先の留学生の数に含めたが、学外からの留学生・就学生の数は 51 人であった。

留学生の来談者のうち、399 人（46%）すなわち半数弱が学部生である。学生総数では学部留学生は大学院留学生の約 4 分の 1 なので、この比率はかなり高い。大学院生は、すでに日本で学部時代を過ごしている人も多いこと、学部の 1～2 年次生は指導教員がいないので授業料免除申請や奨学金などについての推薦を求めて来室すること、学部留学生はチューター制度を活用する人が多いこと、日本人学生との交流やブリッジスの編集などについて学部留学生の方が積極的であることなどがその理由であろう。

修士課程の留学生の来談は 188 人と留学生全体の 21.5% を占める。大学院重点化が完了して修士課程の学生数が大きく増加し、そのために奨学金の受給が難しくなって経済的な問題

を抱える学生が少なくない。経済的に厳しい中で、単位の修得、修士論文の執筆、卒業後の進路と数多くの課題をこなす必要がある。心身の健康に関する来談が一番多いのが修士課程の学生である。

研究生の来談者数は72人で、留学生来談者に占める割合は8.2%である。修士課程や博士課程の入学準備期である研究生の訴える問題は深刻なものが多い。

日本人学生の来談者の70.5%が学部生で、その比率は留学生の学部生の比率に比べても更に高いが、チューターのオリエンテーションを受けに来た学生の多くが学部生であること、教育内容や留学相談について来室した学生も学部生が多いことが主な要因である。それ以外にも、留学相談やブリッジスの編集に積極的であることから学部生の割合が高くなっている。

なお、相談室には本学の留学生、日本人学生の他に、教職員（119人、総数の7.9%：教員39人、職員80人）と学外（211人、総数の14.0%）からの相談があった。学外からの相談は、地域で留学生を支援しているボランティアが最も多いが、他にも行政機関の担当者、一橋大学受験希望者などからの相談がある。

表3 来談者の内訳

種類		人数	構成比 (%)
留学生	学部生	399	26.53
	修士課程	114	7.58
	博士課程	188	12.5
	研究生	72	4.79
	センター生	5	0.33
	日本語研修生	12	0.8
	交流学生	35	2.33
	聴講生	0	0
	学外	51	3.39
日本人学生	学部生	246	16.36
	修士課程	73	4.85
	博士課程	30	1.99
	聴講生	0	0
教員		39	2.59
職員		80	5.32
学外		160	10.64
合計		1504	100

2. 予防・開発的活動

1) オリエンテーション・プログラム

4月及び10月入学の大学院生、学部生、研究生、交流学生、日本語研修生（センター学生）、日本語日本文化研修生を対象にオリエンテーションを行った。なお、オリエンテーションに欠席した留学生については留学生相談室で個別にオリエンテーションを実施した。例として

2. 留学生相談部門

学部と研究生のオリエンテーション・スケジュールを相談部門報告最後のページに記す（添付資料 1, 2）。研究生のオリエンテーションは同時に英語でも実施した他、別途交流学生用の英語によるオリエンテーションとセンター学生用の英語によるオリエンテーションも実施した。

また、オリエンテーションで用いられる「留学生ハンドブック」の全面的な改定を行い、日英併記の 2005-2007 年度版（52 ページ）が完成した。

2) 異文化交流誌『Bridges』

『Bridges』20号(編集長：太田、副編集長：井村)を編集し、2005年3月25日に発行した。2003年度より年1回の刊行となったが、その分82ページの本格的な雑誌となった。表紙は一橋大学美術部の留学生マリン・リサさんが担当した。本号では、「新入生のための国際交流パスポート」「特集：食文化」「特集：日本で学ぶ外国人留学生」、およびアンケート調査の結果を生かして「留学生のふるさと紹介」をシリーズとして特集した。また、留学生課からも、一橋大学北京事務所の開設やアラムナイの組織化、アルバイトの際の注意事項、地震に対する備えなどが掲載され、充実した号となった。

3) 学内留学フェア

日本人留学希望者へのガイダンス及び協定校紹介を目的とした留学フェアを5月26日(水)に学内において実施し、約80名の日本人学生が参加した。交流協定校の紹介は交流学生及び帰国留学生在が担当した。なお、全体会においては学外から、カリフォルニア大学東京スタディセンター高橋香世氏をゲスト講師として招き、各大学の概要、受け入れ体制、留学における心構えなどに関する講義を依頼した。また帰国留学生的の代表として、クイーンズランド大学派遣留学経験者である三浦祥子さん(法学部)が留学から得た経験についてのスピーチを行った。

4) 国際資料室のチューター

個別チューターとは別に、全ての留学生が気軽に日本語のチェックや講義内容の疑問点などを相談できるように、国際研究館1階の国際資料室にチューターが常駐した。チューターは大学院生に依頼し、月曜日から金曜日の10時から1時、2時から5時まで、留学生や日本人学生からの相談を受け付けた。担当者の一覧を表4に示す。一橋大学の常駐のチューター・システムに関する報告と分析は紀要第7号に掲載されているので、そちらをご参照願いたい。

表4 国際資料室担当者一覧

曜日	氏名・所属
月	王 津 (社会学研究科博士課程)
火	坂本 徳仁 (経済学研究科博士課程)
水	眞原 里実 (社会学研究科博士課程)
木	林 幸司 (社会学研究科博士課程)
金	片山 慶隆 (法学研究科博士課程)

5) 留学生日本探訪旅行

2泊3日の「留学生日本探訪旅行」を企画・実施した。8月に長崎(20名参加・引率者:河野)、四国(20名参加・引率者:井村)、2月には神戸・大阪(20名参加・引率者:中本・坂井)、沖縄(19名参加・引率者:横田・竹下)、金沢(20名参加・引率者:井村・本江)を実施した。2月以降は原則として教員のほか職員1名も引率に加わることとなった。

6) 留学生理解のための基礎講座

今年度は、小平国際学生宿舎の最終的な完成にともない、昨年に引き続いて小平市国際交流協会と一橋大学(留学生センター相談部門)の共催で「留学生理解のための基礎講座」を下記のとおり実施した。

趣旨 : 本学小平キャンパスにある国際学生宿舎には、400名強の外国人留学生およびその家族が居住する施設である。小平市民と留学生およびその家族の交流を促進するために小平市民向けに本学留学生センターと小平国際交流協会が主催で、外国人留学生を理解してもらうための基礎的な講座と交流の端緒となるような場を提供する意義は大きい。本講座は、今回で3回目の実施となる。

講座名 : 「留学生と地域: 留学生との交流から学ぶ」

共催 : 一橋大学留学生センター、小平市国際交流協会

後援 : 小平市

開催日時 : 1月27日(木)、28日(金) 午後7時~9時(両日とも)

場所 : 一橋大学小平キャンパス 国際交流プラザ2階会議室(約60名収容可)

講座数 : 3コマ(27日:2コマ、28日:1コマ 受講数は自由)と懇談会(28日)

講座内容

第1日目(27日)

- ①「留学生のカルチャーショックとサポート(地域の方々のために)」

中本進一(一橋大学法学研究科留学生教育教員)

- ②「イスラム社会と日本人、中東に生活して」

谷川達夫(立命館アジア太平洋大学講師)

第2日目(28日)

- ③「留学生生活を経て一市民として暮らして感じたこと」

大坪茹嫻古麗(ルシエングリ)(株国際教育フォーラム講師)

- ④留学生との懇談会(小平市国際交流協会が受付時に参加者から一人300円徴収)

※午後6時45分~7時45分:和室で「さくら会」による留学生向けの体験会を開催した。

2. 留学生相談部門

7) くにたち地域国際交流ネットワークとの協力

国立地域の複数の国際交流ボランティア組織が実施している外国人のためのサポート活動（日本語講座、ホームステイ・プログラム、生活相談等）に協力した。渡日直後の短期ホームステイが好評であり、「ホストファミリーくにたち」とASSISTの協力のもと、8件のホームステイを行った。また、「まほうのランプ」との協力のもと、国際交流会館の倉庫を利用し、留学生のための日用品提供の整理を開始した。

8) 授業

相談部門にかかわる教官が担当した授業は以下の通りである。

①日本語研修コース

科目名（担当者）	コマ数	対象	授業内容	時期・時間数
日本の社会と文化 ～異文化体験ゼミナール～ （中本）	2コマ ／週	日本語研修生	講義や体験学習、見学などを通して日本社会の理解を深め、あわせて日本文化への適応スキルを習得する。	4月コース 10月コース 各64時間

②教養教育科目

科目名（担当者）	コマ数	対象	授業内容	時期・時間数
まちづくり 2004 夏・冬 （横田）	1コマ ／週	学部学生	「教育と思いやり」をキーワードに国立市の富士見台地区の再開発を授業として実施した。	夏・冬学期開講 各30時間
留学生のための社会科学 ゼミナールⅠ（基礎）・Ⅱ（応用） （中本）	1コマ ／週	学部学生	スタディースキル（ノートテキング、リサーチ方法、速読、レポート作成）を中心に大学生活に必要な基礎能力についての講義と演習を行った。	夏・冬学期開講 各30時間
留学生理解と国際教育交流 （横田・中本・太田）	1コマ ／週	学部学生	日本の留学生事情と国際教育夏学交流の政策、異文化適応について学んだ。	夏学期開講 30時間

③学部教育科目

科目名（担当者）	コマ数	対象	授業内容	時期・時間数
商学部 比較文化経験論Ⅰ （横田）	1コマ ／週	主に学部学生	「自分に気づく」をテーマに、心理テスト、ゲーム、エンカウンター・グループを行った。	夏学期開講 30時間
商学部 比較文化経験論Ⅱ （横田）	1コマ ／週	主に学部学生	自分にとって異文化である対象と接触し、その体験を異文化理解ワークショップに組み立てて実施した。	冬学期開講 30時間
商学部 Japanese Business Culture （英語による講義） （太田）	1コマ ／週	主に学部留学生	日本の伝統的なビジネス文化や慣習をホフステードやホールの手法を使って分析する。日本的なビジネス・プラクティスの文化的背景を探る。また、留学生が将来日本企業とビジネスをする際に役立つスキルを学ぶ。	夏・冬学期開講 各30時間

経済学部 基礎ゼミ ～カウンセリング入門～ (井村)	1コマ ／週	主に学部 学生	カウンセリングの基本的な理論を学びながら、心理的困難やストレスに自分で対処できるよう、様々な訓練法を身につける。	冬学期開講 30時間
社会学部 社会・人文の日本語Ⅱ (河野)	1コマ ／週	対象は主に学部 1, 2年、 研究生、 日研生、 交流学生	留学生センターが独自に作成したテキスト、『社会科学への道しるべ』を精読する。それによって論文特有の表現を理解し、内容を的確に理解する。また、各分野における主要な概念や、論じられている事柄の背景について基礎的な知識を学ぶ。	冬学期開講 30時間

④ 大学院科目 (社会学研究科)

科目名 (担当者)	コマ数	対象	授業内容	時期・時間数
総合社会科学日本事情 (河野)	1コマ ／週	主に修士 1年の留 学生	特定の「日本人論」を取り上げ紹介するのではなく、さまざまな「日本人論」「日本文化論」をとりあげる。そしてそれらを自分の身のまわりの日常レベルから再検証してみたり、また批判的に考察する。参加者には自分なりの「日本人論」を考えてもらいたい。	夏学期開講 30時間

(文責：横田雅弘／集計担当：横田・河野・太田・井村・柘植)

学部留学生オリエンテーション(2004年)

★マーク＝必ず出席すること！

9:00	2日(金)	★留学生 オリエンテーション at 国際研究館4F 大教室 10:00-11:45 銀行口座開設案内 at 大教室、11:45-12:00	5日(月)	★入学式 at 兼松講堂 10:00 -12:00 ★新入生 ガイダンス at 兼松講堂 1:30 -4:30	6日(火)	*クラス1-13 ★クラス別面接 at 西本館2F、3F (クラスごとに教室 指定されている) 9:20集合	7日(水)	*クラス1-6 ★医師面接 at 東1号館 1202室 9:00-12:00 (集合時間 はクラスごと に違うので、 各自チャエック のこと)	8日(木)	◇授業開始 地域ボランティア との昼食会 at 国際研究館1F ラウンジ 12:05-1:00	14日(水)	ネットライゼンス 講習会 (6,7日に受講 できなかった学生) at 東2号館 2201室 12:45-2:50 先輩学生による 履修アドバイス at 国際研究館 1F 教官会議室 3:00-5:00	23日(金)	Welcome Party by ASSIST at 東プラザ 2F 6:00-	26日 (月)	履修届提出開始◇28日 (水)まで◇提出場所↓教務課	9:00	10:00	11:00	12:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00
------	-------	---	-------	---	-------	---	-------	--	-------	--	--------	--	--------	--	------------	-------------------------------	------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------